

武庫川下流部築堤区間 川づくり計画図

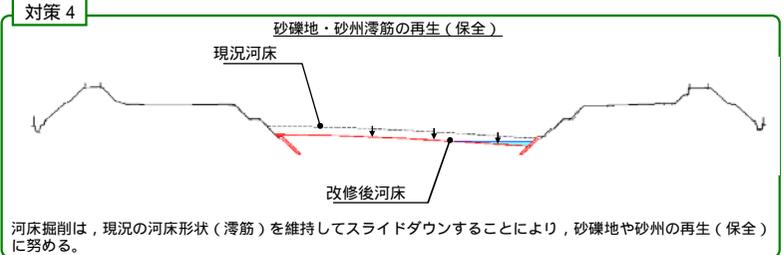
工事番号		目標	汽水域の拡大と干潟の創出
事業段階	川づくり計画		
計画平面図			

対策2 干潟の創出

水制等により土砂堆積を促し干潟を創出することで、生物多様性の回復、親水性の向上に努める。

対策3 植生帯の創出

土砂堆積により、干潟と堤防の間に、朔望平均満潮位より高い位置で植生帯を創出する。

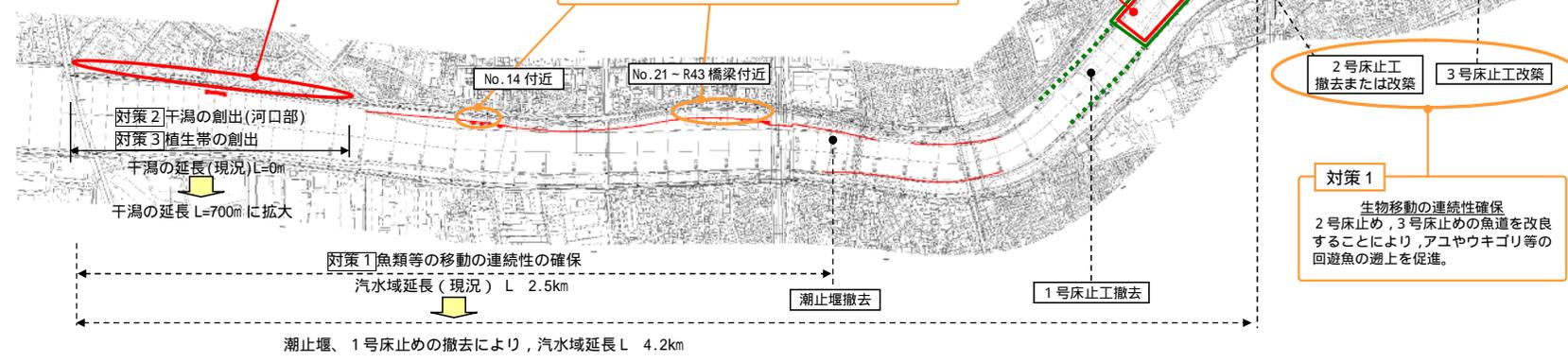


対策2 干潟の創出（2号床止工下流部）

潮止堰・1号床止工の撤去、及び河床掘削（スライドダウン）により干潟を創出し、生物多様性の回復、親水性の向上に努める。

対策1 捨石による生物の生息・生育環境の創出

右岸の低水路拡幅区間の一部において、矢板前面に捨石を配置することにより、生物の生息・生育環境の創出に努める。



2号床止工撤去または改築

3号床止工改築

対策1 生物移動の連続性確保

2号床止め、3号床止めの魚道を改良することにより、アユやウキゴリ等の回遊魚の遡上を促進。

整備メニュー及び方針		管理指標				
項目	方針	指標項目	数値目標	事後調査結果	事後評価結果	今後の対応
魚類等の移動の連続性確保	潮止堰等の撤去に加え、工区上流の床止を改築することにより、汽水域の拡大、移動の連続性を確保し、アユやウキゴリ等の汽水・回遊種の生息環境の改善を図る。	物理指標 汽水域	汽水域の延長4.2km			
干潟の創出	潮止堰等の撤去により、1号床止上流から2号床止上流の間で塩分濃度が低い干潟が創出される。河口部では水制工等により土砂堆積を促し干潟を創出することで、生物多様性を回復し、アユ等の魚類やハクセンシオマネキ等のカニ類の生息場所、塩性湿地の植生等の生育場所を確保する。また、干潟の創出に合わせ、住民との参画と協働のもと、周囲の状況や安全性を踏まえつつ、魅力ある河川景観、水辺とのふれあいの場の創出に努める。	物理指標 干潟	2号床止工下流部(改築) 干潟の面積: 4.6ha 低水路幅×感潮域延長 河口部 干潟の延長: 700m			

武庫川上流部 川づくり計画図

工事番号		目 標	タナゴ類の生息環境の再生
事業段階	川づくり計画		
計画平面図			

【対策1】みお筋の再生

支川との連続性確保
 滞筋内に植生土嚢を底幅の2/3程度に配置し、水深を確保して本川と支川との合流をスムーズに行う。

支川合流部

アンカーで固定

【対策2】瀬・淵の再生

自然石もしくはコンクリート敷

袋詰根固工

【R型淵】
河道内に袋詰根固工を設置することによって流水に対する障害となり、その結果多様な流向と流速が生じて、変化に富んだ河岸地形が形成される。

【S型淵】
局所的に標準部の滞筋に袋詰玉石工を設置することで、上流側滞筋をせきあげ、流速の速いS型淵を再現する。

補助工法を用いてみお筋を絞り込むことにより瀬・淵を再生する。

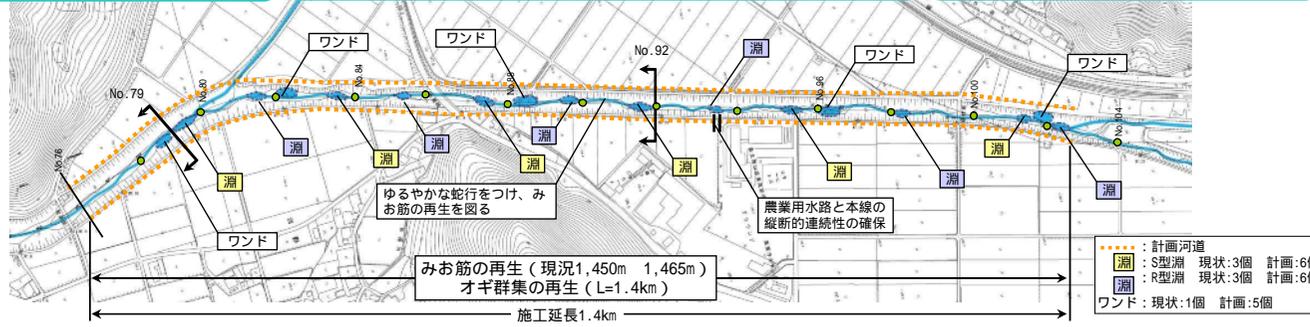
【対策3】ワンドの再生

水循環が適度に行われるよう、みお筋との接続部を10cm程度切り下げ

ワンド河床高は接続するみお筋の河床高と同じとする。

現況面積(約150㎡)程度の広さで再生

ワンドの周囲を緩勾配にし、水際に抽水植物の生育を促す。



【対策4】オギ群集の再生・エコトーンの再生

現地発生土を利用して法面の土羽打ちを行い、オギ等在来植生の回復を図る。(セイタカアワダチソウの区域の表土は用いない) また、高水敷に傾斜をつけ、エコトーンの創出に配慮する。

その他、高水敷に傾斜をつけ、植物の多様性(エコトーン)創出にも配慮する。

【対策5】農業用水路と本川の縦断的連続性の確保

排水管 700

半円形コルゲート管 300

木材

袋詰根固工

前後地へ

土のう

本川と接続する

計画横断イメージ図

No.79付近

【対策4】オギ群集の再生・エコトーンの再生

現地発生土を利用して法面の土羽打ちを行い、オギ等在来植生の回復を図る。(セイタカアワダチソウの区域の表土は用いない) また、高水敷に傾斜をつけ、エコトーンの創出に配慮する。

【対策1】みお筋の再生

支川とのスムーズな合流を図りつつ、現況の蛇行を踏まえてみお筋ラインを設定する。現状以上の長さを確保する。

【対策6】個体の移植

専門家の意見を聴きながら、一時避難、再移植等の対策を図る。

【対策3】ワンドの再生

河床を平坦にせず、横断方向に傾斜や凹凸をつけ冠水頻度に変化をもたせ、植生帯(コトーン)の形成を促す。

No.92付近

【対策4】オギ群集の再生・エコトーンの再生

現地発生土を利用して法面の土羽打ちを行い、オギ等在来植生の回復を図る。(セイタカアワダチソウの区域の表土は用いない) また、高水敷に傾斜をつけ、エコトーンの創出に配慮する。

【対策2】瀬・淵の再生

袋詰根固工によりみお筋を絞り、上流側に流水をせき上げ、あわせて上流側を掘り下げることでより瀬(下流側)、淵(上流側)を再生する。

根固工

みお筋の水深(30cm)を15cmに絞り込む

上流側のみお筋を深さ50cm、幅7.2mに拡幅

整備メニュー及び方針		管理指標				
項目	方針	指標項目	数値目標	事後調査結果	事後評価結果	
みお筋の再生	ナガエミクリ等が生息する水際の低層湿原やタナゴ類の生息場所となる緩やかな流れを再生するため、現況と同様に蛇行部を確保してみお筋を再生する。	物理指標	みお筋	1,465m		
瀬・淵の再生(R型淵・S型淵)	河道が直線的で河床勾配が一定な区間に木杭や根固工等の障害物を設置して、瀬や淵を再生する。		瀬・淵	淵12個		
ワンド・たまりの再生	河床を平坦にせず、横断方向に傾斜や凹凸をつけ冠水頻度に変化をもたせる。また、ワンド・たまりを再生し、洪水時における稚魚や移動能力の低い種の避難場所を確保する。		ワンド・たまり	5個		
オギ群集の再生・エコトーンの再生	オギ群集の早期再生のため、現地発生した表土を置きし、再利用する。また、高水敷に傾斜をつけ、エコトーンの創出に配慮する。					
個体の移植、外来種の駆除	植物重要種及び二枚貝について移植を行う。また、オオクチバス等の外来種の駆除に努める。					